ハンガリー・カーロリ大学 人文学部日本学科との交流 報告書



2017.9.17~9.25





目 次

フォトギャラリー2~7
参加者名簿
『佳人之奇遇』は果たせたか(国際交流委員会副委員長 井澤耕一)9
茨城大学の学生さんへの期待(カーロリ大 若井誠二先生)10~12
カーロリ大生のメッセージ13
参加者の声14~20
研修日程表21~24
研修日程の詳細24~29
参加者の声、引率教員の視点30
学部長の英断に感謝(人文社会科学部 古賀純一郎)31~32
付録(ガイダンス資料・プレゼン資料)33~41
編集後記42















Károli Gáspár University







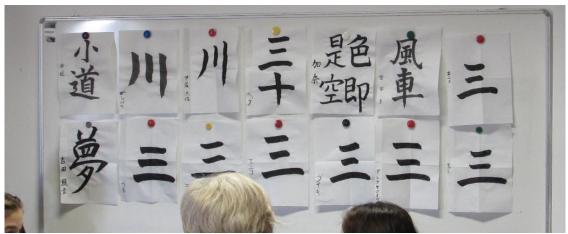
Presentation





書道クラブ













Budapest











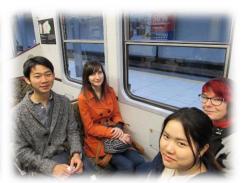






















参加者名簿

・学 生

名前	Name	所属	
阿部加奈	Kana Abe	人文社会科学部現代社会学科 1年	
飯沼 菫	Sumire Iinuma	人文社会科学部現代社会学科 1年	
伊藤 大地	Daichi Ito	人文社会科学部現代社会学科 1年	
佐藤海盟	Kaimei Sato	人文科学研究科文化科学専攻修士課程 1年	
吉田 風音	Kazane Yoshida	人文学部人文コミュニケーション学科 2年	
		計5名	

教員

名前	名前 Name 所属	
井澤 耕一	Koichi Izawa	人文社会科学部人間文化学科 教授
古賀 純一郎	Junichiro Koga	人文社会科学部現代社会学科 教授

計7名





『佳人之奇遇』は果たせたか?

人文社会科学部国際交流委員会副委員長(人間文化学科教授) 井澤耕一

今回ハンガリーの地を 30 年ぶりに踏んだ。とはいっても、前回この国を以訪れたのはシベリア鉄道などを乗り継いでの旅の途中、夜中、列車に乗ったままの通過で、景色などは全く記憶にないし、国境管理官の冷たさだけが印象に残っている。

そのようなハンガリーに、人文社会科学部の学生4名、研究科の学生1名、そして古賀先生と滞在することになろうとは。1年前には考えもしなかった。

さてハンガリーに行く前に少し予習をしてみた、そこで手にした本は著名な歴史学者南塚信吾氏の 『図説 ハンガリーの歴史』 (河出書房新社、2012 年) であった。本書は近代日本とハンガリーの関係も考証しており、大変有益だった。その中で氏が紹介していたのが明治の政治家であり小説家である 東海散士こと柴四朗 (1852-1922) の『佳人之奇遇』 (1885-97)。佳人とは美人の意で、美人と偶然 に会うとは「軽いな」と思ったが、結局は読むこともなくハンガリーに到着した。

当地での詳細かつ真面目な報告は、古賀先生をはじめ学生に任せるが、私が彼の地に1週間過ごして みた感想を一言で申し上げると、「ハンガリー・ブタベストは大都会ではなかったけれど、人は本当に いい人で、どこか茨城に似た懐かしさがこみ上げてくる」。しかし当地の学生などと話してみると、い つも笑顔を絶やさないが、どこか影があると感じた。

1 人の女子学生と、ハンガリーの言葉、文化について話した際、彼女は「マジャール語は周辺の国の言葉とは似てないんですよ」と言ったので、小生が「だから歴史的にほかの国からいじめられていたのかい」と冗談交じりで返すと「そうなんですよ」と一瞬ではあるが寂しそうな顔をしたのは今でも忘れられない。

ブダペスト滞在中、国会議事堂前のハンガリー事件メモリアルミュージアムを見学した、この国は、その歴史の大部分を、ソ連、ドイツ、オーストリア、トルコ、モンゴルなどの国々と戦ったり、その支配を受けることに費やしてきた。1989 年以降自由を得たものも、政治、経済も未だ安定していない。そのような思いを胸に、先ほど未読であった『佳人之奇遇』を読むと、「軽い」どころか、会津戦争の体験者として心の傷を負った主人公が、アメリカ・フィラデルフィアの独立記念館で、アイルランドとスペインの「佳人」に邂逅したのを導入に、清朝の老志士、イタリア人やエジプト人まで登場するが、皆大国に抑圧された国々から渡ってきた者ばかりであった。

その中に回顧談の中ではあるが、ハンガリーの革命家であったコシュート・ラヨシュ (1802 - 1894) も登場しており、その場面を読んだとき、小生は、あのハンガリーの学生の顔を思い出してしまった。 我々にとって、最も大事なのは、過去ばかりを追いかけることではなく、希望がある未来を創造することではないだろうか。そのために小生は毎日教壇に上がり、未来ある若者たちに間接的ではあるがメッセージを送り続けている。今後もこのような思いを抱く学生を増やすために、国際交流にこれまで以上に励んでいきたいと思う。

茨城大学の学生さんへの期待

カーロリ・ガーシュパール大学日本学科 若井誠二

皆さんのハンガリー訪問に際し、カーロリ大は「授業見学」「ブダペスト散策の際の学生同行」「高校訪問」「書道クラブ参加」の4つをアレンジしました。関係者の皆さんの感想を紹介いたします。

1. 授業見学

皆さんには「対話」「日本の教科書分析」「上級会話」「ニュースで学ぶ日本語」「会話 5」の授業に参加していただきました。

現在、個人レベルから国レベルに至るまで価値観の違いによる争いが発生しやすい状況にあります。 これを打破するためには対話を通じ自身の価値観を相対化させ、他者を認めることを学ぶことが重要で す。「対話」にもその願いが込められています。

授業では皆さんのプレゼンテーションを聞き、その後、簡単なテーマで対話をしました。最初のプレゼンでは、学生たちは発表者の話し方に注目していたようです。「体の動き、声の出し方がどれほど大切なことかを学んだ」と言っていました。次のプレゼンは、卒業論文で韓国ドラマと観光産業について書いた学生や、日本留学の際に好きな新撰組にまつわる土地を訪ねた学生には身近なテーマだったようです。対話では、「ハンガリー人が重要視していない人物が日本では有名な存在であることに驚きを感じた」とコメントしていました。

「日本の教科書分析」は日本人学校との交流を目的とする授業です。皆さんには教科書の読解作業を 手伝っていただきました。担当教員は、皆さんが熱心に教えてくださったことに感謝しつつ「母語であ る日本語を学習者に教えることの難しさが体験できたのでは」とのコメントをくれました。「上級会話」 でも皆さんが真剣に意見を述べてくださったことで、カーロリ大学の学生にも考えることの重要性が伝 わったようです。

「ニュースで学ぶ日本語」では、日本の夏休みに関する意見交換をしていただきました。担当教員からは、活動を通して各自の意見の背景にその人のライフヒストリーや国の政策など様々な要因があることを理解してもらえたのではないかとのコメントをもらいました。

「会話 5」の授業は、ハンガリーの教育に関するテーマ選びのブレーンストーミング作業に参加していただきました。皆さんに日本の例を出していただいたことで、学生が発表テーマを決定する大きな助けになったようです。

2. 学生同行

カーロリ大学の学生は、「一緒に町を歩くことで、見慣れているブダペストの町が違って見えた」と言っていました。また、皆さんがとても親切ですぐ打ち解けることができたようです。ある学生からは「日本からのお土産もいただき、『おもてなしの心』について触れることができた」と嬉びのコメント

をもらいました。

3. 高校訪問

みなさんの訪問についてはフンファルビ高校のサイトでも紹介されています。そこでニェシュテ先生が「日本語を勉強し始めて2年の高校生が最大限の力を引き出し、楽しく話ができたのは茨城大学のみなさんのお陰」と感謝のコメントを載せています。



(http://www.hunfalvy-szki.hu/hu/hirek/japan-vendegek-a-hunfalvyban)

4. 書道クラブ

日本人ボランティアの方からは、「筆の運びや所作がキレイで、難しい四字熟語を書く学生さんもお

り、ボランティアにも良い刺激となった」とのコメントをいただきました。

書道クラブ運営に携わっている学生 からは、クラブ終了後に写真を撮った り話をしたりしているうちに、皆さん と本当の友達になったような気がした とのコメントがありました。

市民の自由な移動や住居・言語や文 化の多様性を保障する欧州ではコミュ ニケーション言語を第1言語に限定し



ないという価値観を市民に求めています。この中で外国語教育は以下の2点に貢献することが期待されています。

外国語を学ぶことで市民が・・

- ①複数の言語や異文化に関する知識を用い異文化間の交流に参加できるようになる。
- ②複数言語を学ぶことで言語的文化的寛容を身につけ相互尊重の態度を習得する。

今回のカーロリ大学や高校の訪問で、教師や生徒・学生が上の①②を達成するためにどのように日本 語教育・日本語学習に取り組んでいるか思い出していただけると嬉しいです。また自分自身の外国語学 習についても改めてその意義について考えていただくことを期待しています。









カーロリ大生からのメッセージ

茨城大学はいいな

茨城大学からの皆さんと一緒にブダペスト市内を歩くことができて、とても嬉しかったです。茨大生の皆さんはとても明るくて、話しやすい人ばかりでした。楽しい時間が過ごせて、とてもいい思い出になりました。有意義な会話ばかりでなく、文化交流もできて、日本についての理解が深まりした。

先生方もとても親切で、面白そうな方で、生徒たちとも仲が良さそうで、「茨城大学はいいな」と感じました。機会があれば、是非、訪問してみたいと思いました。

Szentléleki Nikolett

セントレーレキ・ニコレット

また、来てください!

本当に短い間でしたけど、とても楽しかったです。一緒にいたのはただ2日だけでしたれけど、その時間はとてもいい思い出になりました。火曜日はマーチァーシュ聖堂とブダ城で歩いて、土曜日はセンテンドレに行きました。皆さん、キュルテーシュカラーチやグヤーシュは美味しかったですね?また是非来てください!

Katona Eszter カトナ・エステル









身の引き締まる思い

人文社会科学部現代社会学科 阿部加奈

ハンガリーで過ごした1週間は、驚きや感動で溢れ、また、自分にとって勉強になることばかりの充実したものでした。今回の交流に参加した理由の一つは、大学生のうちに外国に行きたいからというものでした。留学してみたいという気持ちもありましたが、海外に行ったことがなく、飛行機にも乗ったことがなかった私にとってはハードルが高いかなと思っていました。だからこそ、まずは1週間の海外

を体験してみようと参加を決めました。

カーロリ大学で参加した授業の1つで、出前授業として 日本語でのプレゼンテーションを担当しました。皆が興味 を持ってくれるか、わかりやすい内容か、などの不安もあ りましたが、実際にやってみると皆がしっかり聞いてくれ て、問いかけにも答えてくれました。日本のことを伝える という形で授業の参加ができたことはとても良い経験に なりました。



カーロリ大生は、皆、勉強熱心で、日本語でたくさん話しかけてくれました。知らない言葉や表現があれば、「それは何なのか」「それはなぜ」などのたくさんの質問をしてくれました。日本や日本語が好きで、もっと知ろうとしてくれることがとても嬉しかったです。また、お店などでも「こんにちは」「ありがとう」と日本語を話してくれる人が大勢いて、本当に嬉しくなりました。

滞在した1週間は楽しいものであったと同時に、「これから頑張らなければ」と身の引き締まる思いでした。高校生も大学生もみんな日本語が上手で、マジャール語、英語の他にも外国語を話せる人、勉



強している人が大勢いました。日本で勉強していても、これだけいろいろな言語を使いこなすことは難しいし、そこまで必要としていない人が大多数です。しかし、今回の交流を通して、「英語をもっと話せるようになりたい」、「マジャール語を知りたい」といったように言語に対する意識が少し変わったように感じます。 1週間という短い期間でしたが、私にとっては非常に貴重なものでした。本当に、行ってよかったと心から思っています。

夢のような1週間

人文社会科学部現代社会学科 飯沼菫

参加した理由は大きく2つありました。1つは、海外とは一体どんな感じなのか体感するため。もう1つは、「この機会がなければ、きっとハンガリーには一生行かないかもしれないから、行ってみよう」というものでした。

このことから分かるように、生まれてから一度も日本を出たことがありません。現地の公用語はハンガリー語ですが、読むことも話すこともできません。資金面の援助をしてくれた父、引率の先生、一緒に行った茨大生、現地の大学の先生や学生さんなど多くの人々のおかげで、とても濃い1週間を過ごすことができました。

初めて海外に行くということで、成田空港に着いてから、1週間後に戻ってくるまで、目に見えるものすべてが新鮮でした。特に、日本では当たり前だと思っていたことが、他の国ではそうではないことが多々あり驚きました。例えば、買い物をしてお会計をするとき、お釣りを手渡ししてくれます。しかし、ハンガリーでは滅多に手渡しされませんでした。

私たちが滞在したブダペストという街は、ドナウ河岸とブダ城地区およびアンドラーシ通りが世界遺産に登録されており、日本では見られない街並みが至る所にありました。目線を下げると、歴史ある建造物には多くの落書きがあり、駅構内にはたくさんのホームレスがいました。ガイドブックには載らない、現地に行ったからこそ分かるハンガリーの光と影を見たようでした。

カーロリ大生との交流の中で、今でも忘れられない言葉があります。あるカーロリ大生に日本語の勉強について話していたところ、「語学の勉強は、何度も何度も話すしか上手くなれない」と流暢な日本語で返してくれました。あまりにも日本語が上手なので意識していませんでしたが、彼らは私たちが日常で話すようなレベルの会話を難なくこなしていたのです。

自分がもし英語話者の人と英語で話す立場だったら、上手く話せるだろうかと自分に置き換えて考えてみました。答えは否。きっと、彼らも授業や留学を通して、何回も何回も日本語を喋って勉強したのでしょう。在学中に英語圏に留学したいと考えていた私にとって、この言葉は語学学習に対するモチベーションが上がった一言でした。

今回の研修は、現地の言葉を話せなくても参加できるということで、気軽に参加することができ、ハンガリーの観光名所を回りながら、現地の学生と交流するという、まさに夢のような1週間でした。また、行く先々で日本との違いを見つけたり、疑問が浮かんだりと、「百聞は一見に如かず」を体感することができ、これから自分が大学で何を学ぶかに大きな影響を与えられました。





ハンガリーで見つけた日本

ハンガリー・ブダペストをゆく

人文社会科学部現代社会学科 伊藤大地

ハンガリーについて知っていたことは、受験勉強で詰め込んだ世界史での知識だけだった。マジャール人、ハプスブルク家、オスマン帝国の侵攻、1956年のハンガリー動乱。知識として知ってはいたものの、今現在のハンガリーを何一つ知らない状態だ。それに加え、私は日本国の領域から出た経験すら持ち合わせていなかった。

慣れない海外。モスクワでのトランジットや公共交通機関の定期券の購入など、初っ端から失態を演じてしまった。英語もまともに操れず、言語も文化も全く違う場所でこれから1週間も暮らすのかと鬼胎を抱くのは、当然のことだったかもしれない。ここだけの話、この交流会に参加したことを後悔する気持ちもあった。

言葉も通じなければ、風景も、街の空気でさえも、日本とは違う。目に映る全てのものを日本と比較しては、その径庭を実感し、不安を募らせるばかり。だが、そんなホームシック紛いに罹っていたのは日本を出て10数時間、もっと詳しく言えばリスト・フェレンツ空港を出てタクシーに乗り、宿につくまでのことだった。

差別するつもりはないが、当初ハンガリーの人々を全く信用していなかった。タクシーに乗った時も、どこか別の場所につれていかれはしないか、遠回りして運賃を上げようとしてはいないか、などと考えており、今思えば被害妄想もいいところだ。そんな固定観念が崩れたのは、降車後、早々に迷子になった自分たちに親切にしてくれた女性に出会った時だ。宿の場所を調べてくれ、日本とは違う形式のインターホンの使い方まで教えてくれた。その親切心に触れ、例え人種・宗教・国籍は違えども、日本人と違うことなど何らないと思えた。

今まで感じていた不安から解放されたためか、それとも長いフライトで疲れていたのか、行程初日を 体調不良で丸々すっぽかしてしまったが、2日目からは体調も回復し、その後は概ね予定通りだった。 そこから先は今までの杞憂が嘘であったかのような時間だった。

日本のビル街とは違う、古い街並み。共産党時代の地下鉄。少し不愛想だったけれど、勝手が分からずに困っていた私に色々と教えてくれた窓口のおばさん。このハンガリーでの記憶の全てが、生涯私の宝となることは、言うまでもないだろう。

1週間、カーロリ大学の学生たちと交流して思ったことは様々あるが、その中でも一番に心に残ったのは、彼らの意識の高さだろう。「大学では何を専門に勉強していますか」、「将来は何になりたいですか」、そう問われたことが幾度もあった。大学生活が始まったばかりで、専門を決めるのも、就職や将来を考えるのもまだ先だと思っていて、何も考えていなかった私は答えに窮してしまった。それを誤魔化すために、彼らに同じ問いを投げかけたが、帰ってきた答えはどれも具体的で、きちんと将来を見据えたもの。その夢に似合うだけの能力も、彼らは有していた。

1人、翻訳者になりたいと言う学生がいた。彼とはセンテンドレでの小旅行で随分と会話をしたが、

驚いたことに彼は日本の政治について多くのことを知っていた。日本の少子高齢化問題についてハンガリーの学生と意見交換するなどとは想像もしていなかったが、彼と話せたことはとても良い刺激になったと思う。

今回ブダペストに行き、如何に自分が認識していた世界が狭かったかを思い知った。37 万 8000 km²しかなかった私の世界だったが、それが如何にちっぽけなものであったか。「井の中の蛙大海を知らず」とはよく言うが、私は小川さえも知らなかった。目に映るもの全てが鮮烈で、新鮮で。そして、如何に自分が漫然と日々を過ごしていたのかを思い知らされた。カーロリ大学の学生も、アンダンテで出会った日本人たちも、少し街で会話しただけの見知らぬハンガリーの人々も。出会った全ての人たちが、目標を、夢を持っていた。

愚昧なこの若輩者には、学び取れなかったことも多々あることだろう。ロバが旅に出かけたところで 馬になって帰ってくるわけではないが、それでもブダペストに行く前の自分よりも成長できたと感じて いる。

この報告書を締めくくるに際して、多大な迷惑をかけ、また援助をしてくれた先生方や茨大生たち、 そして両親に謝罪と感謝の意を表したい



ブダペストの街並み



夜景をバックに談笑

ブダペストにて

人文科学研究科文化科学専攻修士課程 佐藤海盟

9月下旬の約1週間(17~24日)、ハンガリーの首都ブダペストで過ごした。ハンガリー、中でもブダペストは私の研究の中においても少なからず関係する都市である。前々から海外渡航を考えていたものの、恥ずかしながら国外に出たことのなかった私にとって今回の話は渡りに船だった。約1週間という短い間ではあったがブダペストに滞在して、特に印象に残ったことを綴っていきたい。

15 時間ほどのフライトを終えてたどり着いたブダペストは、もうすっかり暗くなっていた。タクシーを呼び出し、数人ずつに分かれて乗車した。フライトの疲労はまだ残っていたが、見ず知らずの土地にいる緊張からか体は強張ったままだった。シートを下げるのを失念していて足が伸ばせず窮屈だったこ

ともある。

やたらと速いタクシーの窓から、夜闇の中で街頭やネオンに照らされ浮かび上がる街の様子を眺めていた。車内オーディオからはハンガリー語でパーソナリティがまくし立てていた。日本ではない、という実感が改めて湧いてくると同時に、漠然とした不安に襲われた。心配性なのだ。

そんなことを考えていると Google マップをいじりながら路上駐車場の間隙をスイスイ走らせていた 運転手が停車した。降車後、すぐに困ったことになった。誰も宿泊場所の正確な位置を把握していなかったのだ。夜の裏通りは人も少なく、街灯の光も頼りなく、不安を掻き立てた。

幸先が思いやられたが、近くにいた女性に助力を請うことで事なきを得た。見知らぬ土地で戦々恐々としていたところで、人の優しさに触れ、感動も一入だった。その後ドミトリーの先客たちとの交流もあったが割愛する。

行程 2 日目の 19 日、我々はカーロリ大の日本語学科の「対話」の授業に参加した。教室の中には教材として日本の漫画雑誌が置いてあった。私の活躍のハイライトとしては、この授業で行ったプレゼンテーションが挙げたい。内容としては「聖地巡礼」を扱ったものだったが、理解してもらえるかどうか不安だった。しかし、プレゼン後のグループに分かれた会話の中で、私の説明した話題についてちょこちょこ触れてもらえて、素直に嬉しかった。

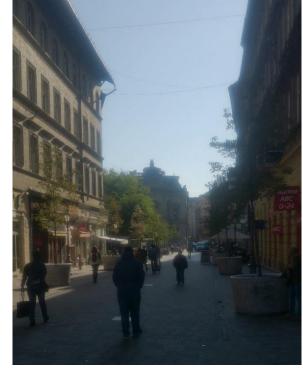
嬉しいと言えば、参加した授業で顔を合わせた学生たちと後日学内ですれ違ったりした時に挨拶をしてくれることだった。1時間ちょっと話しただけの私の顔を覚えていてくれるのは、何だかんだで、嬉しいものだ。

日本の外に出て旅したことは、今までに無かったような濃い体験を味合わせてくれた。大学近くの古本屋に寄った時、客が「Jó napot (こんにちは)」と店員に挨拶しているのを見て次から真似たらちょっと驚かれた。

宿に帰った後は毎日心地よい疲れですぐ眠りにつけた。女子高生と自撮りした写真がブレていた。他にも語りたいことは様々あるが、紙幅の都合上割愛しようと思う。後輩諸君が、瑞々しい感性でより色彩豊かに経験を語ってくれることだろう。

→授業風景





最後に、渡航の援助をしてくれた両親、日ハン両方で お世話になった先生方、ドミトリーで一緒になった諸兄 姉、そして我々の観光に付き合ってくれたカーロリ大の 学生たち、1 週間共に過ごした後輩たちに感謝を。それ はそれとしてまた行きたいものだ。



大学付近

初めての経験

人文学部人文コミュニケーション学科 吉田風音

初めての海外だったためブダペストでの経験は何もかもが初体験となった。今まで名前しか知らなかったハンガリーで、1週間生活しなければならないことに当初、不安を感じていたが、カーロリ大生との交流を通して、「もっとここでいろいろな経験をしたい」と思わせてくれる1週間でもあった。



その中で、①不安なく生活することができた理由②滞在を通じて感じた-ことを2つずつ紹介したい。

1つ目は、公共交通機関が充実していることを挙げたい。移動には、メトロ(地下鉄)、トラム(路面電車)、バスを使った。 長時間待たなければいけないということもない上に、トロリーバス、タクシーなどたくさんの公共交通機関がある。このため、ストレスなく移動することができる。

有効期間7日間の公共交通機関チケットを4950Ft(日本円で約2100円)で、空港で初日に購入し、これを使ってブダペスト市内の乗り物をまるまる1週間楽しめた。日本だと、電車、バス、地下鉄のパスは別々に買わなくてはならない。ハンガリーでは一括して使えるので安いし、とても便利だと感じた。間違った方向のバスに乗ったとしても、本数もたくさんあるし、料金がかからずにすぐ乗り換えができた。少しだけ電車に乗っていこうと思って、すぐ飛び乗れるのがいいところだ。

2つ目は、ハンガリー人の人柄の良さと友達がたくさんできたことだ。今回、カーロリ大の授業に参加しただけでなく、市内散策にカーロリ大生に同行していただき、交流する機会がたくさんあった。そのため、1週間のうち半分以上の時間をカーロリ大生と共にすることができた。今でも連絡を取り合っている友達ができたるほどの密な交流ができた。ハンガリーに到着前は、公用語がハンガリー語のため、「どうやって会話し、友達を作ればいいのか」、「本当に友達はできるのか」と不安な気持ちで一杯だった。だが、「案ずるより産むが易し」。日本学科の学生は、皆、日本語が流暢で、不自由なくコミュニケーションをとることができた。これが、楽しい時間を過ごすことができた1つの鍵になっていたと思う。

カーロリ大生は、「日本人」への興味も持ってくれているので、積極的に話しかけてくれ、困ってい

ると率先して手伝ってくれるなど、人柄の良さに心を打たれた。

次は、1週間の生活を通して感じたことについて紹介したい。1つ目は、「自分たち日本人が恥ずかしくなる」ということだ。街を歩いていて、嫌な思いをしたからというわけではない。日本人の外国語学習への意識の低さに恥ずかしくなったのである。

話をしていると、日本語以外にもたくさんの言語を勉強した経験があるという学生がとても多い。これには驚いた。彼らも私たちと同じように英語(またはドイツ語)を学校で勉強してきたと言っていた。私たち茨大生は、最低でも6年間は英語を勉強した。にもかかわらず、英語でコミュニケーションを取ることに対して、苦手意識を持っており、ほとんどできない学生も少なくない。

カーロリ大生は英語でのコミュニケーションも不自由なさそうで、英語で話しかけられることもあった。例えば、交流した学生の中に日本学科と英語学科の2人がいた。英語学科の男の子は英語で話し、私達は、すべてを聞き取れないので日本語学科の男の子が日本語で通訳してくれた。つまり、交流という1つの場所で日本語、英語、ハンガリー語の3つが飛び交っていたのである。このような経験を1週間したことで、英語を話せないもどかしさや、私たちの外国語への向き合い方についてとても考えさせられ、「もっと勉強しなければ」と触発される気持ちになった。

2つ目は、ハンガリー語が出来なくても、生活に大きな支障はきたさなかったということだ。今回日本語が話せる学生と交流したことも大きかった。店員は英語で話してくれるので、私たちが聞き取るこ

とさえできれば、買い物でも困ることはなかった。 そのため、ハンガリーで生活することになって、多 少の不便はあるが、生活できないほどではないと感 じた。

今回の訪問は留学ではなかったものの、学習意欲が上がること、言葉の壁が低いことを知った。人の温かさを感じることができたなど、様々な交流や経験を通し、ただただ楽しいだけではなく、いろいろなことを考えさせてくれる1週間になったと感じている。もし留学の提携を結ぶことができたら、今回経験したこと以上の素晴らしい経験をハンガリーでできるのではないかと思う。初めての海外でハンガリーに行くことができて本当に良かった。



日程表

9月17日(日)~9月24日(日) 宿泊施設: アンダンテ・ホステル



17 日 (日)

19:30 リスト・フィレンツ国際空港着

21:00 アンダンテチェックイン

18日(月)

06:00 中央市場・自由橋へ 早起きして中央市場で朝食 自由橋も散策

09:30 日本語学科学長への挨拶

10:00 オリエンテーション

12:00 昼食

14:00 英語学科授業参加

15:30 ヴァーツ通り・エリザベート橋・温泉 授業が終わり次第、市内散策 適宜バスを使い、希望者は温泉へ

周辺散策も



08:30 ジェトロ事務所訪問

10:00 国会議事堂へ 近くにの早旋博物

近くにの民族博物館に足を伸ばす? 市内を散策し、昼食も

14:00 授業

14:00 不参加の学生は市内散策 (学生で話し合う)

16:30 くさり橋経由で王宮の丘へ 観光スポットが集中

・王宮の丘へのケーブルカー片道:1200Ft 往復:1800Ft

・マーチャーシュ教会 1400Ft

・漁夫の砦 700Ft (学生 350Ft)

【ブダペスト観光地】

- ウィーン門
- ・国立オペラ劇場
- 西洋美術館
- ・コダーイ・ゾルターン記念館
- 工芸美術館
- 中央市場
- 自由橋
- ヴァーツ通り
- エリザベート橋
- 温泉
- ヤーノシャ山とエルジェ一ベト展望台
- ・グドゥルー
- タタ
- · 国会議事堂
- 民族博物館
- ・くさり橋
- ・王宮の丘
- 国立美術館
- 王宮
- 王宮地下迷宮
- 三位一体広場
- マーチャーシュ教会
- 聖イシュトヴァーンの騎乗像
- ・漁夫の砦



・王宮地下迷宮2000Ft (学生 1500Ft) etc.

20 日 (水)

11:30 聖イシュトヴァーン大聖堂へ 最大 1100Ft

14:00 16:00 授業

14:00 自由時間

19:30 ドナウ川クルーズ (公共交

通機関にて)

ゲッレールトの丘からも見

る?



21 日 (木)

10:00 授業

13:30? ジェトロブダペスト事務所展示会参加

600 円程度

おわり次第 英雄広場・市民公園からアンドラーシ通り

通り沿いにたくさん観光スポ

ット、散策



22 日 (金)

09:30 マルギット島で自由時間 授業不参加の学生は、自由行動

14:00 授業

16:00 書道クラブ参加

18:00 報告会・懇親会

23 日 (土)

09:00 小旅行



24 日 (日)

09:00 アンダンテチェックアウト

13:00 リスト・フィレンツ国際空港発

帰国へ

・聖イシュヴァーン大聖堂

ゲッレートの丘

ドナウ川クルーズ

・ラーツケヴェ

• 英雄広場

• 市民公園

ヴァイダフニャド城

アンドラーシ通り

・マルギット島

(作成者:吉田)

スケジュール表

時間/日付	9月17日(日)	18日(月)	19日(火)	20日(水)
07.00				
07.30				
08.00				
08.30			JETROブダペスト	
09.00			訪問	
09.30		日本学科長 への挨拶		フンファルビ高校日 本語授業見学可(9
10.00		オリエンテーション		時50分~10時35 分)
10.30				73 /
11.00				
11.30				
12.00				
12.30				
13.00		昼食	古賀先生·井澤先 生 学部長挨拶	
13.30				
14.00		英語学科	日本学科授業参加	日本学科授業参加
14.30		授業見学	TA子科技業多加 MA(対話)	BA(教科書分析)
15.00		Nagy Judit		DA(软件音刀机)
15.30			古賀先生	
16.00			コミュニケーション学	日本学科授業参加
16.30			科訪問	BA(上級会話)
17.00				DA(工秘云的)
17.30				
18.00				
18.30			古賀先生・井澤先	
19.00			生	
19.30	リスト・フェレンツ 国際空港着		NagyJuditと夕食	
20.00				
20.30				
21.00	アンダンテ チェックイン			

時間/日付	21日(木)	22日(金)	23日(土)	24日(日)
07.00				
07.30				
08.00				
08.30				
09.00				
09.30				
10.00	日本学科授業参加			アンダンテ チェックアウト
10.30	BA(メディア)			
11.00				
11.30				
12.00				
12.30				
13.00			小旅行 (センテンドレ等)	リスト・フェレンツ 国際空港発
13.30				
14.00				
14.30		日本学科授業参加		
15.00		BA(会話V)		
15.30				
16.00				
16.30		書道クラブ参加		
17.00				
17.30				
18.00				
18.30		報告会		
19.00		和古芸 歌親会		
19.30		心机五		
20.00				
20.30				
21.00				

(若井先生作成)





研修日程の詳細

9月18日(月)【研修1日目】

07:30 自由橋見学と中央市場へ買い物

09:30 日本学科学長を表敬訪問

10:00 オリエンテーション

12:00 カーロリ大の若井先生と昼食

14:00 英語学科の授業へ参加

15:30 英雄広場を視察

16:00 随一のエリザベート通りを散策

20:00 牛肉ステーキ店で夕食



ブダペストに着いたのは 17 日の夜。すでに暗く、辺りの街並みを見ることなく、そのまま眠りについた。早起きして外に出ると、日本とは違う、キラキラ輝く世界に感動した。晴天と天候にも恵まれて、初日のスタートとして最高の 1 日で、カーロリ大訪問や市内の散策などを楽しんだ。英語の授業は、講義の内容や生徒の能力についてもいずれもレベルが高く、ほとんどついて行くことができなかった。だが、海外の英語教育に触れることができ、いい機会となった。エリザベート通りには世界一美しいとされているマクドナルドがあり、たまたま発見でき入ってみた。マックとは思えない素敵なカフェのような店内でただただ驚いた。終始驚きと感動で終わった最高の初日だった。

(吉田風音)

9月19日(火)【研修2日目】

08:30 ジェトロ・ブダペスト事務所訪問

09:30 市内散策(国会議事堂など)

14:00 カーロリ大の日本語に授業参加

15:30 カーロリ大生と共に市内散策

18:00 ハンガリー料理のレストランへ



あいにくの曇天。早朝、ジェトロ(日本貿易振興)のブダペスト事務所を訪れ、本田雅英所長から、 最近のハンガリーの政治経済の現況、日本を含めた海外企業の進出状況などについてのレクチャーを約 1時間、受ける。欧州の自動車会社が、電気自動車(EV)化に向けて一斉に走り出していることを象徴 するかのように、ドイツや中国の企業が EV の部品工場をハンガリー国内で立ち上げるケースが相次いでいるとの説明があった。終了後に徒歩で5分ほどのイシュトヴァーン大聖堂に向かう。教会の中へは入らず、外から写真を撮りながら、そのままドナウ川沿いの国会議事堂へ向かう。議事堂前で各自記念撮影し、1956年のハンガリー動乱(革命)の様子を伝える映像などを上映する地下施設を見学した。その後、西駅へ移動。駅近くのショッピングモールにて昼食をとる。午後1時過ぎにカーロリ大学へ移動。午後2時からの日本語学科の「対話」の授業に参加。茨大生の阿部、佐藤による、日本を紹介するプレゼンテーションを披露した。終了後に、少人数のグループに分かれて日本語で対話。カーロリ大生と連絡先などを交換した。

終了後、カーロリ生数人と一緒に市内散策へ出かけた。公共交通などを利用してドナウ川を臨むブダ 王宮へ移動。キツめの階段を歩いて登り、全員で記念撮影。写真を撮りまくる。私は、ゾルタンさん(ゾ リさん)と歴史について話をした。

午後6時前後で切り上げ、カーロリ大生と一緒に大学へ戻り、近くのハンガリー料理のレストランへ。 4人で1席に座り、歓談しつつ夕食を取る。地元で定番のスープ、グヤーシュを頂いた。意外と腹が膨れる。食後にゾリさんの提案で、食前酒のパーリンカを頂く。店員に1杯を3つに分け欲しいとお願いすると呆れられた。パーリンカとは、ハンガリーの蒸留酒で、スモモやリンゴなどのフルーツを基に作られる。アルコールの度数は40~50度ほどで強い。飲むと、喉がカッと熱くなって、その後にスッキリした果物の風味が広がる。気になる方は、ぜひ試していただきたい。同じレストランで先生方も会食をなさる予定だったそうだが、悲しいすれ違いがあったらしい。食後は日本からのお土産を渡し、お返しにハンガリーのお菓子を頂戴した。 (佐藤海盟)

9月20日(水)【研修3日目】

09:50 ファンファルビ高校授業参加

10:50 自由行動

14:00 カーロリ大授業「教科書分析」参加

16:00 博物館

17:00 カーロリ大生と夕食。

20:00 ドナウ川のクルージング



午前の日程は、地元の高校のフンファルビ高校の日本語授業への参加だった。地下鉄を乗り継いで、 高校近くの駅までいき、そこから徒歩で15分。研修3日目ということもあり、だいぶ異国の地に慣れ たつもりではいたが、そうではなかった。日本の高等学校とはまるで異なり、生徒も皆、大人びていた。 10代半ばの若い盛りで、非常に元気で活発だという印象を受けた。また、高校生が学ぶ第2外国語という割には、日本語が皆、とても上手くて驚いた。

「教科書分析」の授業は、日本の国語の教科書に載っている「大造じいさんとガン」を読む、であった。授業には大学院の佐藤さん、井澤先生両名と参加したが、お2人とも教えるのが上手く、自分も負けてられないと、積極的に学生たちに話しかけることができた。心残りなのは、自分が教え下手だったという点だ。自分が普段何気なく使っている日本語を教えるのは非常に難しく、いい経験になった。

終了後、「上級会話」の授業に参加している茨大生と合流するまで空き時間があった。このため近くの国立博物館に出かけ、ハンガリーの文化を伝える展示を見学した。その後、カーロリ大生と合流してドナウ川クルージングへ。船の出発時間までに時間があり、船着場の近くのショッピング施設にあるイタリア料理店で夕食をいただく。着席した時は、まだ、明るかったが、次第にとばりが落ち、暗くなると、辺りの照明が付き始め、行き交う船やエリザベート橋などが闇に浮き上がり、とてもきれい。クルージングは、約30分。初秋にもかかわらず、船の甲板は、結構、寒さがこたえた。「ドナウの真珠」と評されるブダペストの夜景は、とても素晴らしく、今でも鮮明に記憶している。 (伊藤大地)

9月21日(木)【研修4日目】

10:00 日本語学科の授業 (メディア)13:30 農業博覧会 HUNG・EXPO 視察17:00 終了後に市内散策 (中央市場)



この日は、私と古賀先生がカーロリ大の日本語授業 (メディア) に参加した。渡辺薫先生のパワーポイントを使った授業は、日本関連のニュースを聞き、取り上げた話題についての理解を深め、その話題について少人数のグループでディスカッションをするのが中身。テーマは「夏休み短縮」だった。

中身は、放課後の先生の負担を軽減するため、1日の授業時間を短くする代わりに授業日数を増やし、 年間授業数を確保しようという日本の小中学校での取り組みだ。私にとってはなじみのある事例だが、 カーロリ大生らは、とても驚いているようだった。

後半のグループに分かれたディスカッションで、グループに入り、両国の夏休み事情について話をした。カーロリ大生に日本語はとても流ちょうで、日本人と話しているような感覚だった。

終了後は、ブダペスト市内で開催中のジェトロ主催で日本企業の多くが関係している博覧会を視察した。地元の子供たちが校外学習の一環として来ており、地元からも注目されていることが良く分かった。 国別のブースがあり、製品の展示や食品の試食が見られた。そんな広い会場の中でひときわ目立っていたのが日本だった。有名な日本企業の試食コーナーは黒山の人だかり。和牛についての説明を熱心に 聞きながら和牛を試食する人々の顔には笑みがこぼれていた。こちらまで嬉しくなったのと同時に日本 の海外での注目度の高さを痛感した。

終了後は、市内散策へ出かけた。初日の朝に出かけたカーロリ大近くの中央市場へ、女子だけ向かった。市場の1階は主に生鮮食品や乳製品などが売られており、2階は観光客向けのお土産屋が並んでいる。夕方の市場は様々な国からの観光客でごった返していて、賑わいを見せていた。お土産物を安く買えることから、ついつい財布の紐も緩み、両手に買い物袋を提げながら電車で宿に帰った。(飯沼菫)

9月22日(金)【研修5日目】

9:30 マルギット島を散策

12:30 昼食

14:00 日本学科授業(会話)

16:00 書道クラブ参加

18:00 報告会、懇親会

21:00 夜景



午前中に出かけたマルギット島の散策は、自然が豊かでとても落ち着く雰囲気だった。4人乗りの自転車を漕ぎながら楽しく散策できた。天気が良く、気温もちょうどよかったため体を動かしつつ、リラックスできた。午後は、日本学科の授業に出席し、グループに分かれてのカーロリ大生との日本語の会話を楽しんだ後は、書道クラブが待っていた。小学校の教室ほどの大きさに部屋に並べられた横に長い机の上に、硯、筆などを並べて久しぶりの書道に向かい合った。最初は、硯に水を注ぎ、墨を右手に持ち、墨汁を作る作業。カーロリ大生は、皆、正面を向いて、無言でただただ、墨をすり続けていた。

10 分ほどすると、赤の墨汁で書かれた手本を左に置いて、筆を右手に書く作業だ。半紙が少ないためか、最初は、新聞紙に筆で文字を書いて、大まかの感覚をつかむ。手の文字は、「川」、「夢」、「三」など。井澤先生を含めて茨大生もチャレンジ。習字に取り組むのは、皆、久しぶりで、悪戦苦闘しながらも、思い思いの気持ちを半紙に書いていた。

カーロリ大生らも、意外にもかなり上手。こんな形で一緒に日本文化を体験でき、とても嬉しかった。 夕刻から、カーロリ大の御厚意で、報告会兼夕食会を開いていただいた。若井先生は都合で出席できず、後藤将太先生と最後の夕食を一緒にした。茨大生の滞在しているホテルに近い、現地の人に人気の レストランだった。バイキング方式で、自分の好物を選べるのは良かった。1週間の滞在でハンガリー 通になったのか、グヤーシュ・スープをおかわりしているのが目立った。パンも超美味。

終了後は、皆で、市内を歩き、最後の夜景を楽しんだ。本当にどこに行っても絵になる風景ばかりでとても感動した。写真をたくさん撮ったけれど、やはり夜景は、実際この目で見たほうが奇麗だなと感じた。 (阿部加奈)

9月23日(土)【研修6日目(最終日)】

9:00 センテンドレ小旅行

18:00 帰宅

19:00 最後の晩餐

若井先生のお勧めもで、芸術家の街として知られ、観光客に人気の田舎町センテン





ドレへ小旅行に出かけた。電車に 30 分程揺られ、その間、カーロリ大生とおしゃべりし、交流を楽しんだ。

観光地ということもあって、ゴミなどもなく、街はこぎれいな印象。ハンガリー人に人気のハプスブルグ家マリア・テレジア・イエローの壁が美しい家が並ぶメインストリートの両側に、パプリカ、チョコレート、人形、民族衣装、宝石など地元の土産物を置いている土産物屋がひしめく。ピザ屋などのレストランやパブなどもあった。土曜日ということも手伝って、大通りの中央に屋台のような出店が立ち並んでおり、バームクーヘンに似た御菓子やピザ、クッキーなどが平台の上に並べられ、売られていた。

昼食は、地元の観光局に問い合わせて、紹介されたピザ店へ入った積りだった。いざ、入ってみると、 メニューにピザはなく、ハンガリー料理のレストラン。おなかも空いていたので皆が好みに応じで料理 を注文していた。

小旅行には、土曜日というのにもかかわらずたくさんのカーロリ大生が参加してくれた。うち、日本学科所属ではないのにもかかわらず、来てくれたリッチーには、感謝してもし切れない。皆と別れるのは非常につらく寂しく、また会いたい。センテンドレ旅行は、ブダペストとは違ったハンガリーの姿を楽しめ、とてもよい思い出となった。 (伊藤大地)





参加者の声(学生)

○良かった点

- ・初めての海外体験がとても充実し、楽しいものになった
- ・語学への意欲が増した
- ・ハンガリーの学生に向けて講義をする良い体験ができた
- ・カーロリ大生と多くの時間、交流でき、自分たちだけでは行けない場所を案内してもらえた
- ・日本語が話せる学生が多くいたことで、言語面での不安が少なかった
- ・交通の便が良く、危ない目にも遭わなかった。皆が楽しく研修を終えることができた
- ブダペストで、知り合いができた
- ・現地の学生と交流できる機会が多く、たくさん会話ができた
- ・授業などの参加が自由に設定されていたため、現地で各自が自分の自由時間を持つことができた

○改善点

- ・英語とハンガリー語の知識と能力が足りなかった
- ・前もって下準備が上手くできていればよかった
- ・予定通りに計画が進まなかったため、もたつく場面が諸処に見られた
- ・今回の研修の趣旨を達成できていたのかという部分に不安が残る
- ・連絡手段が乏しく、報・連・相を怠りがちになった
- ・積極的に会話することができなかった
- ・市内散策の際、まとめ役がいなかったため混乱することがあった
- ・現地の学生と連絡をとる係をあらかじめ決めておくべきだった
- ・事前に行くことを決めた観光地やお店以外に行く場合、早めに行動するべきだった。日本のように、 いつでもやっている場所が多いわけではない

○引率教員からの視点

問題点

・引率教員からすると特になく、皆きちんと対応してくれました

改善点

- ・プログラムへの参加で、単位が取得できるようにする、このためのアイデアを考える
- ・次回以降の参加学生に対するマニュアルを作成する

良かった点

- ・市内のフィールドトリップ、センテンドレへの小旅行でカーロリ大生が積極的に参加し、若井先生、カーロリ大の先生などからもぼ支援していただけた、ジェトロの事務所長のレクチャーも良かった
- ・書道が意外に人気だと分かった、カーロリ大生が意欲的に日本語を勉強していたことが分かった点
- ・初日の歓迎昼食会、最終日にカーロリ大が送別会をしていただけた

学部長の英断に感謝

人文社会科学部現代社会学科教授 古賀純一郎

今回のカーロリ大訪問では、同人文学部東アジアセンター日本学科の学生らと現地に渡った 5 人の茨大生と間に、思いもよらぬ濃密な交流が実現し、異文化交流という観点からも多大な成果を挙げることが出来た。引率した教員としては、とても嬉しく思っている。

講義や日本貿易振興機構(ジェトロ)ブダペスト事務 所・展示会への訪問などの空きの時間に学生らは、ドナ ウの真珠といわれるブダペスト市内の景勝地を、カーロ



リ大生の案内で訪れ、十二分に堪能できたようである。今後もこうした交流を継続できたらと切に望む ものである。

交流が開始となった発端は、筆者の今年3月のカーロリ大への訪問である。海外協定校の拡大を目指す大学や学部の方針もあって、東欧の大学と協定関係を結べないかと考えていた。

東欧の大学としたのには、理由がある。近年、提携関係を結んだブルガリアの協定校ソフィア大への本学部生の留学希望者がことのほか多かったためである。英米よりも人気があった。四方八方に情報収集した結果、2015年度にカーロリ大から茨大人文学部へ留学、私のゼミに所属していたベアタさんへの依頼を思いつき、日本学科の窓口の若井誠二先生をご紹介いただいた。連絡を取ったところ2つ返事で

快諾をいただいた。

さっそくブダペストに飛び、国際交流担当のナジ先生や 400 人の学生が学ぶという日本学科の後藤先生やコミュニケーション学科の学科長らと面談。若井先生からは、「日本人と話をする機会が少なく、上達しないのが悩みのタネ」などの打ち明け話を聞くに及んで、両大の間で学生交流をすることで一致。それを発展させることができれば、協定を締結するとの段取りとな

った。

1か月後の前期入りでカーロリ大との交流会のための現地訪問を学生に説明すると、20人以上の学生が関心を示してくれ、最終的に5人の参加が決定した。引率については、学部の国際交流員会副委員長の井澤耕一教授の参加の要望もあって、今回、加わっていただいた。 学生の参加者のメンバーは、5月で締め切った。これは、格安の航空券やホテルを早めに確保するためである。自前の学生にとっては安いに越したことはない。滞在先を、邦人の経営する格安のユースホステルを確保できたため交通費を含めて参加費を10万円台前半に収めることが出来たのは幸運であった。

さらに、良かったのは、学部の中での国際交流の 重要性を高く位置づける佐川学部長の英断で引率 を2人に決めていただいたことである。これによっ て、カーロリ大側の本学の交流に対する熱い思いを 十二分理解していただくことに成功した。次回以降 の交流に向けて明るい材料となったことは間違い ない。

現地での学生同士の交流は、学生の報告に紹介さ

れているので、ここではそれに委ねたいが、一番興味深かったのは、書道クラブだった。国内の書道教 室で繰り広げられている同じ光景がそのままハンガリーに移動したような印象だった。

椅子に座り、筆を右手に机の上の半紙に向かって書道に取り組むカーロリ大生を現地の駐在員の奥様 方がボランティアで手伝い・指導されており、それに混じって茨大生が久しぶりの書道にチャレンジ。 元気印の井澤先生も悪戦苦闘されていた。

今回1週間滞在した、"ドナウの真珠"として知られるブダペストは、18世紀から20世紀の初めまで欧州の大国、オーストリア・ハンガリー帝国のウィーンとともに政治経済の中心地として重要な位置を占めた。街の至る所にアールヌーボー様式の建物や彫刻が施された重厚感のある石造りの建物が林立し、美術館の中を歩いているような気さえした。

パリのソルボンヌ大学で勉強されたセプシ・エニコ学部長や昨年ハンガリー語・日本語辞典を上梓され、当時の岸田外相からも表彰されたイローナ・バロック日本学科長らは、茨大大学との交流に意欲を示されていた。協定を締結した場合に、相手の大学に留学した場合にそれぞれ何を勉強するかが、ポイントでもある。学部の国際交流委員会を中心に協議を重ね、この東欧の名門大学との交流を是非とも積極化させたいものである。 (終)





東欧の文化を学ぼう!!



ハンガリー・カーロリ大との学生交流・説明会

開催日: 4/21(金)、4/28(金)、5/12(金)

場所:人文C棟406号室 12:00~約30分



概要

現在進めている交流協定締結を記念し、学 部学生10人程度が9月下旬に"ドナウの真 珠"ブダペストを訪問、約1週間交流する

内容 (現在調整中)

- ①日本語や英語の講義への参加
- ②先方の学生との名所旧跡へのfield trip
- ③現地高校への出前授業(日本語)ーなど

費用

20万円程度(旅費、滞在費など)

カーロリ大

ブダペスト中心部に本拠、学生数4000人 日本語が超人気、履修生は年間400人 書道部、合気道部などがある









連絡先:人文社会科学部 古賀純一郎(内線8448) メイルアドレス koga.junichiro.jk@vc.ibaraki.ac.jp







ハンガリーとは

- ▶面積9.3万平方氚、人口986万人
- 首都は、ブダペスト(人口175万人)
- ハンガリー(マジャール)語、人種はハンガリー人(マ ジャール人、ウラル・アルタイ系)
- カトリック39%、プロテスタント12%





ドナウ川とエリザベート橋



王宮(ペスト側)



カーロリ・ガシュパール・カルビン派大学

- ▶ 1993年2月設立、本部は、プダペスト市の中心部、ドナ ウ川から100気ほど離れた学生街
- ·学生3819人、教職員171人、非常勤20人
- ・秋学期(9月~12月)、春学期(2月~6月)
- ・神学部、法学部、人文学部など4つ



日本語が大人気

- ト日本語の履修者は、年間400人
- (本語 20cm)
- 講義で使う言語:ハンカリー語70%、英語16%、独語6%、 蘭語4%、日本語4%、西語0.2%
- ▶ ハンカ・リー大学の人文学部168のうち10位にランキング
- ▶ 留学生:115人、うち人文学部は、87人



交流のため9月下旬などに訪問

- ▶「東欧の文化を知る」:9月頃(来年3月の可能性も)に 先方を訪問、東欧を学び、学生らと交流
- メニューは:①東欧を知るための日本語、英語などによる講義(政府、自治体)
- ▶ ②先方の大学生との講義(日本語)などでの交流
- ▶ ③ブダペストの景勝地へ学生とフィールドトリップ
- ④現地の高校での日本語講義
- ⑤在ブダペスト邦人の交流ーなど

経費:20万円超

- ▶ 旅費;日本・ブダヘペスト往復 13万円強
- ▶ 日本に比べて物価がとても安いので滞在費:1週間程度で3万円、生活費:同3万円計20万円程度を想定
- 学部や大学から支援金を期待







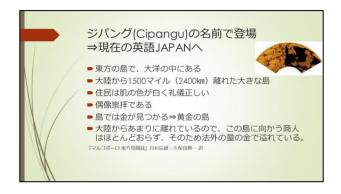
<プレゼンテーション資料>























・発表原稿 阿部加奈

皆さんこんにちは。日本の茨城大学から来ました阿部加奈と申します。よろしくお願いします。 今日この授業で皆さんにお話できる機会をいただきました。今日は日本がどんな国なのか、皆さん にもっと知ってもらえるようお話したいと思います。

日本は世界地図で見るとここにあります。皆さんが住んでいるハンガリーはこのあたりです。私 たちが来た茨城は日本の中でも東京に近いところにあります。電車では1時間から2時間くらいで す。

ここでハンガリーと日本を少し比べてみましょう。ハンガリーの人口は986万人に対して、日本の人口は1億2805万人です。また、面積はハンガリーが93024 km。日本が377972 kmです。GDP はハンガリーが1371億 \$、日本が489兆6234億円です。GDP に関しては単位が違うので正しい比較ではないのですが、大きく差があることが分かります。

皆さんは日本にどんなイメージを持っていますか?忍者や侍、舞妓さん、寿司やてんぷら、ほかには、車などの工業製品、アニメやまんがのイメージがあるかもしれません。今から800年前、日本はなぜか黄金の国というイメージを持たれていました。

では、日本はどのようにしてヨーロッパに伝わったのでしょうか?ヨーロッパに日本のことが伝わったのはマルコポーロの『東方見聞録』によるところが大きいです。マルコポーロは13世紀のベニスの商人で、父とアジア各地を訪問し、その経験を本にまとめました。

東方見聞録に日本はジパングという名前で登場します。英語の Japan と似ています。本では日本について次のように書かれています。東方の島で大洋の中にある。大陸から 1500 マイル (2400 km) 離れた大きな島。住民は肌の色が白く礼儀正しい。偶像崇拝である。島では金が見つかる→黄金の島。大陸からあまりに離れているので、この島に向かう商人はほとんどおらず、そのため法外の量の金で溢れている。

確かに昔日本では金がたくさんとれていました。といっても、金で溢れるほどではありません。なぜこうした間違いが起こったのでしょうか。それは平泉にある中尊寺の姿から誤解したと考えられます。平泉は私の出身地岩手県にある世界遺産です。この金色堂には金がたくさん使われています。この姿から日本の建物はみんなこうなっていると誤解したのかもしれません。世界遺産というのはドナウ河岸、ブダ城地区及びアンドラーシ通りを含むブダペストと同じです。

さて、黄金の国というイメージを持っていた日本は今どんなところになっているでしょうか。ここからは今の日本についてお話します。この和の雰囲気がある写真も夜でも明るい都市の写真も、どちらも日本です。まずは、和、伝統文化についてです。一番わかりやすいのは食文化です。寿司やてんぷらや、きれいな和菓子など、和食は海外でも人気があります。皆さんは和食を食べたことはありますか。気になる方はぜひたべてみてください。次に今の日本を代表する文化はアニメや漫画です。アニメや漫画で日本を知り、日本に来てくれる方もたくさんいます。

3年後の2020年には東京でオリンピックが開催されます。日本には魅力的な人、もの、風景や文化がたくさんありますので、皆さんが日本を好きになってくれると嬉しいです。





・発表要点 現代では観光と結びつく



・発表要点 コンテッツ・ツーリズム 地域振興や経済的効果を生む可能性











・発表要点 伝統宗教との関係が希薄になった→ツーリズムやアニメ聖地巡礼へ





・発表要点 例として、ガルパン/大洗、信貴山/東方









・発表要点 パワースポット、聖地と一般人の新たな関係





・発表要点 現代の聖地巡礼は、宗教と社会の新たな関係を示していくのではないか



参考資料 ▶ 阿本売輔『聖地巡礼 - 世界適産からアニメの舞台まで - 』 中央公論新社、2015年 ▶ 由合裕級、佐藤鷹久一郎『サブカルチャー 聖地巡礼 - アニメ聖地と戦国史蹟 - 』 岩田 書席、2014年 ★ イアン・ブラッドリー(中郷佐知子、中森田世訳)『ヨーロッパ聖地巡礼 - その歴史 と代表的な13の巡礼地』 銅元社、2012年 ▶ 大石玄 「アニメ 《舞台探訪》 成立史・いわゆる 《聖地巡礼》の起源について」『釧路工業商享用門学校に表』 動話工業高等甲門学校、45、4.50、2011-12-16 ● 明選孫子寺公式中 (http://www.sissan.or.jp/ 2017/09/03問覧 ▼ 方里嘉麗命 - Undefined Fantatic Object 公式中P (http://www.16.bis.or.jp/-zun/html/thl2top.html) 2017/09/03問覧 ▶ ガールズ&パンツアー公式サイト(http://sissan.or.jp/ 2017/09/04問覧 ▶ ブールズ&パンツアー公式サイト(http://sissan.or.jp/ 2017/09/04問覧 ▶ 大洗明公式中P (http://www.town.oaral.g.jp/) 2017/09/04問覧 ▶ 大洗明公式中P (http://www.town.oaral.g.jp/) 2017/09/04問覧

編集後記

僅か1週間という短い間でしたが、カーロリ大学日本語学科の生徒との交流はとても 有意義なものとなりました。習慣や考え方が違うようで、でもやはり似た所もあって、 それを互いに理解し合って。日本では経験できないような刺激も沢山受けました。

この報告書を作成するにあたりご協力下さいました古賀先生、井澤先生、カーロリ大学の若井先生、カーロリ大学の学生に感謝の意を申し上げたいと思います。

編集長 伊藤大地

2017 茨城大学人文社会科学部・カーロリ大学日本学科交流 報告書

責任者

人文社会科学部 古賀純一郎

引率者

人文社会科学部 井澤耕一

編集長 伊藤大地 (人文社会科学部)

発行日: 2017年11月20日